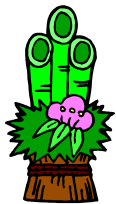


「夢」こそ人生を拓く力！

昨年の12月、このコラムで「レ・ミゼラブル」取材の際の“夢物語”を綴ったところ、多くの方から「面白い」との反響をいただきました。ところで「夢」にはいろんな意味があります。先のコラムは夢でも寝ている（うたたね）間にみた夢でした。

もう一つの、未来に実現しようとする「夢」は、別名で「目標」「希望」「ゴール」等とも言えるでしょう。その「夢」について今年の私の年賀状で触れたのでそのままご紹介してみます。



明けましておめでとうございます。

6回目の年男。でも巳年の動物は苦手という不思議な不一致——そこで毎年書いてきた千支の由来は控えさせていただきました。

仲間からは「ここが痛い」「あそこが思うようにならない」なんて便りが届くようになってきました。

となれば体力づくりこそ！今年も1日1万歩、マンション7階の部屋まで階段を上ることを目標に、水泳、テニスで少しでも鍛えていきたい。

「心」の面では二つの外国語のレベルアップと文学紀行。日中関係が落ち着けば「三国志」の舞台の一つ赤壁を訪ねてみたい。そのためにもしっかりと仕事もして取材旅費を蓄えなければ・・・忙しくなりそうだが年男だからガンバルべえ——これが東京のドン・キホーテの“見果てぬ夢”です。

夢を抱くことはただ（無料）。夢を描くことによって人生そのものが楽しく見えてきます。仮にそれが結果的に実現できなくても、日々の生活に希望とほりを持たせてくれるから夢は描かなければ損。今年も夢（なるべく大きな）を広げていきましょう。

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

2013年 元旦

Don Quijote de Tokio (自筆のサイン) ここに風車に向かうドン・キホーテの印章

Email: donky17@nifty.com/

HP: <http://homepage2.nifty.com/donky/>

(HPは月に1回、ブログは毎日更新しております)

この下の空いたスペースに各人に合わせた言葉を書き添えました。

10^キ x 15^キの年賀葉書に綴れる文字は限られています。しかも、新年早々の挨拶状に長文は「しきたりに反している」かもしれません。でも、毎年、受け取る年賀状のかなりが印刷された挨拶だけ。それでも差出人が一筆添えていればまだしも、なかには印刷文だけのものもあります。これだと、仮に100通を読み終えるのにも10分ほどで終わってしまう。送り主の確認だけのようなものだからです。せつかく、ゆったりとした時なのだから、もう少し時間をかけて読ませてくれるものがあってもよいのではないか——

そこで私自身は、10年ほど前から、少々長めの近況報告やエッセイを綴るようにしたのです。新年早々に長い文言は、古来のしきたりに反するかもしれませんが、心にも時間にもゆとりのある正月には、こちらのメッセージを伝え、また楽しんでいただければ、との

思いからなのです。



さて、話しは戻りますが「夢＝目標、希望、ゴール」はできるだけ抱いた方がよいでしょう。それもなるべく大きなものを！ 私も定年になると「留学」「世界文学紀行」「料理」「ギター」「ゴルフ」と、多彩でとつもない大きな夢を抱きました。どれも定年後に初めてとりかかるものでした。それをホームページや年賀状で公表したのです。言い切ったところでその実現への挑戦を迫られました。でも、ラッキーというかお陰さまで、この11年間で夢の相当部分を実現してきています。

留学はスペインのマラガ大学に1年間、文学紀行は昨年までに15作品、料理は和・中・洋の手持ちのレシピが100以上になった・・・やや遅れている（進歩が遅い）のがギターとゴルフです。忙し過ぎて練習時間のないのが主な原因。それに加齢もあるのかな？でもゴルフでいえばいつもブービーなどのビリはそれ以上落ちることはありません。あとは順位は上がっていただけ、という楽しみがあります。こんなふうに楽観的に考えていけば大き過ぎると思われる夢も負担にはならないでしょう。留学から帰国した翌年、私は鬱になってしまいました。約1年間苦しんだ結果、このようにすべてを前向きに考えていくことに決めたのです。

私も会員になっている創価学会は今、創立100周年の2030年を目指しています。世界広布（仏法の精神を世界に広め平和を築いていく）という人間として最も崇高な道で、自分も最大限に貢献、ちょうど90歳＜2030年＞でPPK（ピンピンコロリ）が私の生涯にわたる“見果てぬ夢”です。

Dreams come true!

仮に年老いてきても夢を抱いている、目標を思っていることが大事だと思います。いつか叶ってきます。もちろん、そのための努力も大切ですが・・・。心に描いていないことが実現することはあり得ないからです。



文学紀行の取材でドイツを訪れた際、ゲーテが「ファースト」の総仕上げの執筆を開始したのが76歳であったと知ると勇気が湧いてきたものです。

第二の人生とは単なる趣味や道楽のみではなく、新しいことを始めてみるチャンスでもあります。

「夢は人生を拓く力」です。このコラムが新年のスタートにあたり、皆様のなんらかのご参考になれば幸いです。